

NO! デートDV・ダメメンズ



DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、夫婦間におこる暴力だと考えていませんか。しかし、DVは夫婦間だけの問題ではありません。未婚のカップル間でも、親密な関係になると大人のDVと同様のことが起きています。そのことを「デートDV」と呼びます。

その要因のひとつは、誤った「男らしさ」、「女らしさ」学んでしまい、男女の関係が互いに人格を尊重しあわず、「力と支配の関係」になっていることが根底になって起こるといわれています。今回は、この問題を取り上げ、互いに相手を人間として尊重しあうことの重要性について学びます。

講師：社会福祉学科 松倉 聡史 先生

11月29日 16:30～ 本館 321 講義室

NO! デートDV・ダメンズ

松倉聡史

1 デートDVとは何か

DV (Domestic Violence) とはドメスティック・バイオレンスと言われ、一般に夫や恋人などからの親密な関係にあるパートナーに対して行う暴力や暴力的、高圧的な態度のことを言う。

2001年 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律

夫婦げんか程度の扱いから、犯罪であることが明確化

東京都の調査では3人に1人

政府の調査では20人に1人が身の危険を感じる暴力

DVは大人だけの問題ではなく、デート中の若者の間でも起こる

デートDV (Dating Violence)

大人のDVとは異なり、経済的な結びつきもなく、パートナーの家族との関係もなく、法的な結びつきもない

結婚以前のデートDVは大人のDVにもつながりうるもの

葛藤と攻撃という共通性

子ども時代や思春期という時間的経過の中で捉えることが重要

2 デートDVはなぜ起きるのか (原因)

① 両親からの影響

a. DVを目撃した子どもや虐待を受けた子ども

感情、行動、認知、発達上の問題

鬱(うつ)病、分離不安、PTSD (Post Traumatism Disorder)

子どもは思春期に仲間に対して暴力的になる傾向

女子はデートDVに影響する

研究

・DVを目撃した子どもが大学生になって身体的加害者となる可能性や性的な加害者となる可能性が予測

・子どものころ虐待を受けた男子学生がデートDVの加害者となる関連性は見られなかった

・子どもの頃、性的虐待を受けた女子学生はデート相手から肉体的・精神的攻撃の被害者となる可能性がある

b. 両親の離婚

・両親の離婚を経験した学生はしていない学生に比べて、デート相手に言葉の攻撃や暴力をふるう危険性が高かったという研究が2例あった

・兄弟姉妹間での暴力が大学生のデートDVにも影響を与えているとの
データーがある

家庭環境での出来事が、子どもが大学生になってからの暴力的態度や行動
を行う危険性と被害者となる可能性がある

② 世代間連鎖

親から子どもへまたその子どもへという世代間連鎖

a. アタッチメント理論

アタッチメント 「愛着」と訳すことが多い

ある特定の対象との愛情の絆

Bowlbyの心理学的研究

「恐れや不安な状況において、自分が誰かから一貫して保護してもらえ
るということに対する信頼感こそがアタッチメントの本質的要件であり、
それが人間の健全な心身発達を支える核になるのだ」

一つは愛情行動、二つは分離不安、3つは愛情喪失の概念を用いて体系的に
示した

乳児の行動は親を乳児に近づけさせる行動と、子どもが親に近づいていく
行動があり、それらの行動は両者とも親との密接な関わりを可能とする行動
となっている。最初は意識的には行動していないが、発達するにしたがい、
養育者とそれ以外の人とを区別するようになり、養育者への接近を強めてい
く

不安定なアタッチメントと大学生のデートDVとの関係

① 不安定なアタッチメント、②怒りの気質、③パートナーへのコント
ロールを試みる

b. ストックホルム・シンドローム

家庭内ストックホルムシンドローム (DSS)

好きと嫌いと勘違いする現象。特に女性に発生しやすく、実父と同じ欠点
を持った男性に魅力を感じ、恋人や夫にしてしまう。

人質にされると、人は自分の命を握っている人(犯人)を嫌いになるより
も好きになってしまう現象

子どもは親が嫌いでも生き残るために必死で好きになろうとする

女性に発生しやすい現象で、父親と同じ悪いところを持っているため男に
魅力を感じてしまう現象。実父から愛されなくてさみしい思いをしてきた女
性ほど、実父と同様に自分を愛さない男性をみると好きと勘違いして、愛さ
れようと努力する。当然のごとく、失敗を繰り返す。

(e.x. ダメンズウォーカー)

家庭内ストックホルム症候群 (DSS) の特徴

子供は家庭しか居場所がないので、親に逆らうことができない。そういう意味では、子供が人質で親が犯人に相当する。子供は親に自分の命を握られている存在だからである。そのため子供はたとえ親が嫌いでも、生き残るために必死で好きになろうとする。

DSSの怖いのは、大人になってから恋をするときに、自分の気持ちにウソをつかれてしまうことである。つまり、嫌いな人を見ると、好きな人と勘違いして恋人にしてしまう。

特に女性に発生しやすい現象で、父親と同じ悪いところをもっているだめ男に魅力を感じてしまうという恐ろしい現象である。実父から愛されなくてさみしい思いをしてきた女性ほど、実父と同様に自分を愛さない男性を見ると、好きと勘違いして寄っていつてしまうのである。あるいは、実父と同じような弱さ（アルコールやギャンブルに走ってしまう弱さなど）を持っている男性を見ると、好きと勘違いして近づく。そして、その男性から愛されようと努力する。当然、失敗する。

しかも困ったことに、自分を無条件に愛してくれる男性から愛されてもありがたみを感じない。むしろ、自分を愛さない人から愛されてこそ意義も意味も悦びもあると思いつている。そのため、自分を愛せない男性を見ると必死になって愛されようとする。それが恋愛だと思いつている。

実父と似ただめ男が好ましく見え、その人の世話をしあげたくなくなったり、無性にその人から愛されなくなったりするので、第三者が制止しても聞く耳をもたない。本人は良かれと思いつているから。

実際、当人はそういうだめ男でないと、付き合う気になれない。それがDSSという現象である。きわめて無自覚な現象なので、気が付きにくいのが特徴。自分の過去の恋愛を分析するしか、発見する手立てがない。

もともと嫌いなのに「好きだ」と自分に言い聞かせるのがDSSなので、巧妙な言い訳を必要とする。人間にとって、好きと嫌いの区別は最も重要なことなので、強烈に言い訳を自分にしないとDSSは発生しない。知的レベルの高い女性ほど、DSSが発生しやすいのはそのためである。自分自身をだましてしまうほど巧妙な言い訳をたくさん用意できないと、DSSが成り立たないからである。そうやって、自分自身をだましたつげが、自分の恋愛の時に回ってくるのである。

しかし、本人は好きだと思いつているので、DSSが発生していることを指摘しても、認めることはまれである。逆にヒステリックに否定しようとする。なぜなら、好きと嫌いが間違っていたら今後何を信じて生きていいかわからなくなるからである。また、過去の恋愛の全てが否定されてしまうからである。でも、過去の間違つた恋愛を否定されることを怖がつていると、100%間違いなく悪い結婚をしてしまう。そして、何十年かたつて、自分の本当の気持ちに気がついた時から「夫のパンツをはしてつまんで洗濯する奥さん」になるのである。たとえ自分の本当に気持ちに気がつかなくても、結婚生活は地獄になる。ゴキブリとセックスをし、ゴキブリの子を生んでしまう人生だから。自分の本当の気持ちに気がつかないと、一生が台無しになる。

歴史的なストックホルム症候群

スウェーデン、ストックホルム発「銀行強盗事件」

1973年、ストックホルムの銀行を強盗が襲い、犯人は数人の人質をとって立てこもった。警官隊と何度も衝突をくり返し、人質が解放されたのは、事件発生から1週間後。

しかし、人質を解放した後、事件関係者は不思議なことに気づく。当然、犯人を憎むはずの人質が、口々に犯人をかばうような証言をするのだ。それだけではなく、「感謝されるはずの」警察を、侮辱するようなことさえ口にする。

そのうえ、事件が解決した後、人質の1人であった女性が、なんと、犯人グループの一人と結婚してしまう。これが、最初に有名になった「ストックホルム症候群」で、この症候群は、この事件から名付けられた。

アメリカ、カリフォルニア発「パトリシア・ハースト事件」

1974年、カリフォルニア州バークレーから、ひとりの女性が誘拐された。彼女は、サンフランシスコ・エグザミナー誌のオーナーである大富豪、ハースト氏の長女だった。彼女の名前は、パトリシア・ハースト。大学生だった彼女は、ボーイフレンドと住むアパートから、拉致されたのだった。

彼女を拉致したのは、「人民解放」を目的とする政治的グループ「SLA」だった。最初は、ただの人質として監禁されていた彼女だが、少しずつ SLA のメンバーと交流するようになる。そして、ついには洗脳されて、SLA のメンバーとなり、銀行強盗を犯してしまうのだ。

監禁中にすっかり洗脳されて、SLA になってしまった彼女は FBI に逮捕され、その後、刑期を終了する。彼女に犯罪の責任はあるのか、など、裁判をめぐるいろいろな心理学説が台頭。パトリシア・ハーストさんは、ストックホルム症候群でもっとも有名になった女性でもあり、彼女の体験を描いた映画や本はベストセラーとなった。

日本発「新潟女性長期監禁事件」

1990年11月、当時小学校9歳の少女A子ちゃんが新潟県内で突然行方不明に。警察は公開捜査にも踏み切ったが、手がかりはなく、無残にも10年という歳月が過ぎていった。

2000年1月28日、19歳になっていたA子さんが保護される。最初は犯人からかなりの暴行を受けていたが、最後の方は、家の2階でならば自由に行動することができたという。ただ、彼女が監禁されていたのは、トイレも風呂もないという、とても過酷な環境だった。

なぜ彼女は逃げなかったのか？と彼女に問うことはできない。それこそが「ストックホル

ム症候群」だからだ。簡単に言うと、彼女は長い監禁生活と、予想もできない犯人の暴力行為のなかで「自分で行動する」という意思を奪われ、そしてその異常な生活は、幼い彼女のなかで「日常」と化してしまった。それが彼女の、サバイバル能力だったのだ。

ただ、彼女はストックホルム症候群の弊害にも負けず、気丈に生き続け、そして自由になることが出来た。この事件では、特に警察の行き届かなかった捜査も問題とされている。

3 デートDVの特徴

DVは実はおとなだけの問題ではありません。若者たちの間ですでに広くおきています。それを「デートDV」と言います。おとなのDVもデートDVもまったく変わりません。婚姻関係があるかないかの違いだけです。暴力をふるう理由も要因も同じです。権力と支配です。被害者がいやと言えない、愛しているから、愛されているからと勘違いしている、逃げ出せない、逃げようとする暴力が激しくなる、セックスを無理強いする点も同じです。デートDVだとまわりの人々が、結婚しているわけじゃないんだから、女の子のほうがさっさと離れればすむじゃないかと考えがちですから、女の子たちはかえって孤立してサポートが得にくい状況になります。

デートDVはセックスをすることで始まったり、本格化します。ですからデート中の子どもたちのけんか、いざこざ、と軽くみても危険です。ストーカー行為や、激しい暴力行為につながる危険性があります。避妊しないセックスで望まぬ妊娠をし、その結果女の子は墮胎で身も心も傷つきます。おとなの加害者男性を変えるのはたいへんです。もっと早いうちにDVの芽を摘み取る必要があります。気がついていない子どもたちに、デートDVとは何か、DVは犯罪・人権侵害であり、関係を破綻させるだけであること、相手を深く傷つける行為であること、暴力をふるう側も苦しむことを伝えたいと思います。そのためには若者たちが親密な関係を持ち始めるころか、その前に、中学、高校、あるいは大学で予防教育をすることが必要です。

5 防止教育の重要性

リスクと健康への影響と予防対策

- ・デートDVに関係する男性のリスクとして、反社会的行動、仲間と暴力的関係にある少年、身体的暴力を伴う脅しを経験している少年、飲酒など。
- ・一方の女子は暴力や薬物使用により健康が害されながらもデート相手を得たいと願望の方が優先される傾向があるとの調査報告がある。
- ・薬物の使用、飲酒、妊娠、性感染症、早期の性交渉、自殺、絶望感、不健康なダイエットにより健康が侵されていく。デートDVの犠牲者であったかどうかは子どものころのなんらかの暴力の被害者であったかよりも重要な指標である。

アメリカにおける予防対策

地域活動と学校活動との連携

・学校活動

トレーニングを受けた教師による対話方式による講義

学生によるロール・プレイ

デート防止対策のポスターなどの啓蒙活動

・地域活動

デートDVに関わる若者への支援サービス

電話相談、サポートグループ、両親のための資料

支援サービスに携わる人々へのトレーニング

電話相談部門、救急部門、健康部門、警察部門、精神保健部門、プログラムの開発

大学生を対象とした性的被害を予防するためのプログラム

デートDVに関連して、性的攻撃に対する対策の知識を深め、レイプなどの被害を減少

未婚の男女の付き合いに関する意識調査結果(単純集計)

対象:1年生栄養学科、看護学科、社会福祉学科:全数 144 名(出席数:調査中)

回答数:42 有効回答:41(女子[F]37、男子[M]4)

以下の質問にそう思うか、そう思わないか、Yes または No に を付けてください。:全員への質問

	回答欄	Yes	質問
1	Yes No	F:14/37 M:3/4	カップル間で、彼氏が彼女に対し暴力(身体的・言語的・精神的・性的)をふるうようなことはない。
2	Yes No	F:15/37 M:3/4	仮に彼女に対し暴力をふるう男性がいたとしても、それは数%程度に過ぎない。
3	Yes No	F:11/37 M:2/4	カップル間に暴力(身体的・言語的・精神的・性的)が起こるとすれば、2人の関係が悪くなった時や彼女のことが嫌いになった時に起こる。
4	Yes No	F:2/37 M:0/4	彼氏から暴力(身体的・言語的・精神的・性的)をふるわれる女子がいたとしても、ふるわれる方にも何らかの問題があるのだから仕方がない。
5	Yes No	F:1/37 M:0/4	彼女が他の男性と会話するのは浮気をしているのと同じであり、彼氏からの暴力(身体的・言語的・精神的・性的)の対象となっても仕方がない。
6	Yes No	F:20/37 M:3/4	暴力(身体的・言語的・精神的・性的)をふるうような彼氏とさっさと別れない女性がおかしい。
7	Yes No	F:1/37 M:0/4	彼女が Kiss を OK したら、それは Sex を OK したのと同じことだ。
8	Yes No	F:4/37 M:0/4	カップル間の暴力(身体的・言語的・精神的・性的)は、女性に外傷が残っていなければ暴行罪は適用されない。

以下の質問にそう思うか、そう思わないか、Yes または No に を付けてください。:全員への質問

	回答欄	Yes	質問
1	Yes No	F:2/37 M:1/4	DV(ドメスティックバイオレンス)は夫婦の間のこと。
2	Yes No	F:16/37 M:2/4	デートのときの暴力 DV(身体的暴力、言葉の暴力など)なんてめったにない。
3	Yes No	F:17/37 M:2/4	デートで暴力をふるわれる女の子なんてすくない。
4	Yes No	F:4/37 M:1/4	おきたとしてもきっと1回だけだ。
5	Yes No	F:3/37 M:1/4	望んでいないのにセックスする女の子なんていない。
6	Yes No	F:3/37 M:0/4	いちどセックスしたら男性は「彼女は俺のものだ」と思っている。
7	Yes No	F:1/37 M:0/4	デートでレイプされる子なんて自分が悪い。
8	Yes No	F:8/37 M:1/4	お互いにきらいになって別れそうになったときおきる。
9	Yes No	F:8/37 M:0/4	暴力をふるうのは相手を好きじゃないからだ。
10	Yes No	F:1/37 M:0/4	暴力をふるわれる理由が女の子のほうにある。
11	Yes No	F:13/37 M:0/4	うんと親しくなれば、女の子がいやがっても男の子がセックスしたがるのはしかたない。
12	Yes No	F:23/37 M:3/4	女の子がどうしてもセックスはいやなら避けられるはずだ。
13	Yes No	F:2/37 M:1/4	セックスのとき男の子が避妊しなきゃならぬ、女の子は無理強いできない。
14	Yes No	F:2/37 M:0/4	女の子のほうから避妊してなんて言ったら嫌われる。
15	Yes No	F:0/37 M:0/4	避妊なんて格好悪い。

女性への質問

:女性への質問

交際相手のいる人は、その彼氏のことを考えて、特定の交際相手がいない人は「もし交際相手がいたら自分はこうする(こう考える)」という設定で答えてください。Yes または No に を付けてください。

1	Yes No	6/37	他の男子と仲良くしていることを彼氏に責められても、私が悪いのだから仕方がない。
2	Yes No	1/37	私が何か失敗した時に、彼氏から「だからおまえはダメなんだ!」「お前なんかにはできるはずがないんだ!」と言葉で非難されるのは仕方がない。
3	Yes No	0/37	彼氏のことは最優先であり、彼氏との約束は変更したり破ったりしてはいけない。
4	Yes No	1/37	彼氏が私に無断で私の携帯を見たり、データを消去したりと、自分の物のように使っても注意すべきではない。
5	Yes No	2/37	私が失敗した時には、周囲に人がいてもその人たちの前で非難されても仕方がない。
6	Yes No	0/37	彼に貸したお金は催促すべきではない
7	Yes No	1/37	私は彼氏の言うことをきくべきであり、彼氏のためなら何でもすべきだと思う。
8	Yes No	10/37	彼氏に対し「私のような女性と付き合ってくれるのはこの人しかいない」と思う。

特定の交際相手が現在いますか、あるいは過去にいましたか(いずれかに):女性への質問

	回答欄	
1	25/37	現在いる、または 過去にいた へ
2	12/37	過去にも、現在にもいない 終了

女性への質問:交際相手(現在いる人は今、今いない人は過去のうち一人)の彼氏に関して答えてください。

1	Yes No	2/25	あなたのことを「きたない」「バカ」など人をおとしめるいやな言い方で呼ぶことがありますか。
2	Yes No	12/25	あなたが他の用事で会えなかったりすると、自分を最優先にしないと行ってふてくされたり、怒ったりしたことがありますか。
3	Yes No	5/25	あなたが誰と話すか、家族や友だちの誰といっしょにいるかなど、何でも知りたがって聞いてきますか。
4	Yes No	1/25	しょっちゅう携帯に電話してきて、あなたがどこで誰と話したり会ったりしているかチェックしたことがありますか。
5	Yes No	2/25	怒ったときに物にあたるなど、あなた怖いと感じるような態度・行動をしたことがありますか。
6	Yes No	8/25	あなたへの怖い態度や行動をしたあと謝ることが多いですか。
7	Yes No	0/25	すごくやさしいときと、すごくいじわるでいやな態度のときとが極端ですか。具体的には「俺には君しかいない」とやさしく言ったかと思うと、「おまえは本当にばかだ」とばかにしたりするなど。
8	Yes No	3/25	ふたりがけんかしたとき、あなたが怒らせるようなことを言ったからだとか言ってあなたを責めたことがありますか。
9	Yes No	4/25	あなたが何かについて話そうとすると話をそらしたりして、あなたの話をちゃんと聞いてくれないことが多いですか。
10	Yes No	2/25	よく約束を破りますか。
11	Yes No	0/25	あなたの携帯をチェックして、男(女)友だちのメールやアドレスを消せと命令したり、消してしまったりしたことがありますか。
12	Yes No	6/25	「僕のことが好きならいいだろう」とあなたの気が進まないことをさせたことがありますか。
13	Yes No	4/25	あなたの希望や考えを尊重しないで勝手に決めることが多いですか。

男性への質問

:男性への質問

交際相手のいる人は、その彼女のことを考えて、特定の交際相手がいない人は「もし交際相手がいたら自分はこうする(こう考える)」という設定で教えてください。Yes または No に を付けてください。

1	Yes No	0/4	彼女が他の男子と仲良くしていると、彼女に暴力(身体的...言語的・精神的...性的)をふるいたくすることがある。
2	Yes No	0/4	彼女が何か失敗すると「だからお前はダメなんだ!」「お前なんかにはできるはずないんだ!」と言葉で非難することがある。
3	Yes No	2/4	彼女が自分と会うことより他の用事を優先したら腹が立つことがある。
4	Yes No	0/4	彼女に無断で彼女の携帯を見たり、データを消去したりと自分の物のように使うことがある。
5	Yes No	0/4	彼女に対してむかついた時は、周囲に人がいてもその人たちの前で非難することがある。
6	Yes No	0/4	彼女から借りたお金は返さなくてもいいと思うことがある。
7	Yes No	1/4	彼女は自分の言うことをきくべきだと思うことがある。
8	Yes No	0/4	彼女に対し「俺以外にお前と付き合ってくれるような男はいないぞ」ということがある。

特定の交際相手が現在いますか、あるいは過去にいましたか(いずれかに):男性への質問

	回答欄	
1	3/4	現在いる、または 過去にいた へ
2	1/4	過去にも、現在にもいない 終了

男性への質問:交際相手(現在いる人は今、今いない人は過去のうち一人)の彼女に関して教えてください。

1	Yes No	1/4	デート相手が自分の意見に従わないといらいらしたり怒ったりしたことがありますか。
2	Yes No	1/4	相手が自分だけでなく、他の人とも仲良くしているのに嫉妬して責めたりしたことがありますか。
3	Yes No	2/4	相手がどんな人とどんな話をしているのか、とても気になって聞いたりしますか。
4	Yes No	0/4	相手に何をするか、誰と話すか、どこへ行くか、何を着るかなどについて指示し、それは相手のためだと思っていますか。
5	Yes No	0/4	相手に向かって「俺とあいつ(ときに人、物、ことがらなど)のどっちが大事なんだ!」という言い方をしたことがありますか。
6	Yes No	0/4	腹を立てたとき、相手の目の前で物をたたいたり、壊したり、投げたりしたことがありますか。
7	Yes No	0/4	腹を立てたとき、相手の腕や肩をつかんだり、押したり、たたいたりしたことがありますか。
8	Yes No	0/4	あなた自身の問題や自分がいらいらしていることを、相手のせいだと責めたことがありますか。
9	Yes No	0/4	相手がしたことをとがめるとき、相手をたたいたりしたことがありますか。
10	Yes No	1/4	いつも相手をリードしなければと思っていますか。
11	Yes No	0/4	ふたりのことでも、相手の考えや希望を尊重しないで、自分ひとりで決めることが多いですか。
12	Yes No	0/4	相手は自分より劣っていると思いますか。
13	Yes No	2/4	付き合っている相手を「自分のもの」だと思っていますか。

女性 37 名に関する質問相互の関係

1 特定の交際相手の有無と質問の回答

質問群 の Yes の数

特定交際相手（現在 / 過去にあり） 2.2 ± 1.3

特定交際相手（現在 / 過去になし） 1.3 ± 1.3 $P=0.0468$ (Mann Whitney U-test)

「特定交際相手が現在 / 過去にありと答えた人のほうが、一般的なデート DV に関し不適切な見方をしている。」

他の質問群では有意差なし

2 質問群 の回答と質問群 の回答の関係

		質問群	
		Yes:3 個以下	Yes:4 個以上
質問群	Yes:2 個以下	9(75.0%)	3(25.0%)
	Yes:3 個以上	7(28.0%)	18(72.0%)

$P=0.0124$ (Fisher's exact probability test)

「質問群 、質問群 とも一般的なデート DV に関する見方についての質問であり、その結果は回答者ごとに見ればほぼ同じ傾向であった。」

3 質問群 の回答と質問群 （特定交際相手が現在 / 過去にある人への質問）の回答の関係

		質問群	
		Yes:1 個以下	Yes:2 個以上
質問群	Yes:2 個以下	9(81.8%)	2(18.2%)
	Yes:3 個以上	4(28.6%)	10(71.4%)

$P=0.0154$ (Fisher's exact probability test)

「質問群 で一般的なデート DV について、不適切な見方をしている人のほうが、実際の交際相手からよりデート DV に当たるような行為を受けている。」

この意識調査は、山口のり子著「若者のためのデートDV防止プログラム」、秋田県、福島県教育センター、熊本県男女共同参画ホームページから引用して、一部改変し作成したものです。